

阪神・淡路大震災から26年

～地震保険での建物・家財別の再保険金支払状況をデータ開示～

1月17日、阪神・淡路大震災から26年が経過します。

当時の地震保険の普及状況は地震保険制度創設以来の最低水準でした。1994年3月末時点で地震保険の世帯加入率は全国平均7.0%、さらに兵庫県の世帯加入率は全国平均を大きく下回る2.9%という状況でした。

このような状況の中、地震保険では783億円の保険金をお支払いしました。

今回、開示しました建物・家財別のデータ集計では、建物は支払件数41,459件、615億円、家財は支払件数39,879件、167億円の保険金の支払い状況となっています。

現在の兵庫県の世帯加入率は前年に比べ増加し31.0%になりましたが、全国平均33.1%を下回る状況が続いています。付帯率でも兵庫県は前年に比べ増加し64.6%となりましたが、全国平均66.7%を下回る状況です。また、兵庫県内の地方別でみた付帯率では、全国平均を上回るのは上位順に、南あわじ市、淡路市、伊丹市、芦屋市、尼崎市をはじめ10市、一方、神戸市では全国平均を下回る状況となっています。

この地震の記憶を風化させることなく、今後とも、地震・噴火・津波の備えとして地震保険が生活再建の力になることをお伝えしてまいります。

1. 阪神・淡路大震災の概要

1995年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、神戸市や淡路島の一部地域では震度7に相当する揺れとなりました。

大都市を襲った直下型地震により、死者・行方不明者は6,437人、負傷者は4万人を超える大災害となりました。

気象庁はこの地震を「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」と命名し、政府はこの災害を「阪神・淡路大震災」とすることを閣議了解しました。



[神戸市中央区被災状況]



[神戸市長田区被災状況]

(写真提供：神戸市)

2. 阪神・淡路大震災での地震保険再保険金支払い状況

2020年3月末現在

地震名	地震発生日	地震規模	支払再保険金
平成7年(1995年)兵庫県南部地震	1995年1月17日	M7.3	783億円

- ・地震保険は地震等による被災者の生活の安定に寄与することを目的として、政府と民間損害保険会社が共同して運営する保険です。
- ・支払再保険金783億円のうち、政府は61億円、当社を含む民間損害保険会社は721億円を負担しました。

[建物・家財別の再保険金支払状況]

2020年3月末現在

(単位：件、百万円)

当時の 損害区分	建物		家財		建物・家財計	
	支払件数	支払再保険金	支払件数	支払再保険金	支払件数	支払再保険金
全損	6,180	28,210	4,554	10,481	10,734	38,692
半損	10,134	25,993	10,907	2,802	21,041	28,795
一部損	25,145	7,372	24,418	3,485	49,563	10,858
損害区分計	41,459	61,576	39,879	16,770	81,338	78,346

3. 現在の地震保険の契約状況

(1) 地震保険の世帯加入率

全国平均	兵庫県
33.1%	31.0%

(2) 地震保険の付帯率

全国平均	兵庫県
66.7%	64.6%

(参考) 東日本大震災、熊本地震の被災地での現在の世帯加入率、付帯率

[世帯加入率]

宮城県	熊本県
52.0%	42.8%

[付帯率]

宮城県	熊本県
87.0%	82.3%

(3) 兵庫県内の地震保険付帯率(上位10位)

順位	地方別	付帯率
1	南あわじ市	71.6%
2	淡路市	70.4%
3	伊丹市	69.6%
4	芦屋市	69.5%
5	尼崎市	68.6%
6	宝塚市	68.5%
7	明石市	68.3%
8	洲本市	67.9%
9	川西市	67.7%
10	西宮市	67.1%

- ・損害保険料率算出機構ウェブサイト <https://www.giroj.or.jp/> の公表データに基づく数値です。
- ・世帯加入率は2019年12月末保有契約件数を2020年1月1日時点の住民基本台帳に基づく世帯数で除した数値です。
- ・付帯率は2019年度に契約された火災保険(住宅物件)契約件数のうち、地震保険を付帯している件数の割合です
- ・(3)の兵庫県内の地震保険付帯率(上位10位)は、損害保険料率算出機構公表の「地震保険 地方(市・区等)別付帯率」をもとに日本地震再保険で作成しました。

以上